

北公民館

岡田校区青少年育成会・愛護部合同研修会開く

みんなで子どもを
すこやかに育てよう

子どもたちを非行から守りすこやかに育てようと、10月2日（火）、北公民館で青少年育成会と愛護部合同の研修会が開かれました。

各区長さんはじめ補導委員さん、学校の先生、PTA・愛護部の役員さんなど約80名の方が参加しました。

講師として、伊予警察署の石丸章司係長が来館され、「少年犯罪の現状と課題」と題してご講演くださいました。この中で少年の非行について



▲伊予警察署 石丸章司係長

て次のように述べられました。○最近、悪質な少年犯罪が増えているが、戦後ずっと見渡してみると増えたり減ったり、その時々々の社会情勢を反映している。

○少年の凶悪犯（強盗・強姦・放火・殺人）は増加傾向にあり、この10年間で倍増している（特に強盗）。

覚醒剤の乱用も増えており、松前町でも起こっている。

○喫煙・飲酒・深夜はいかなるなども増えているが、補導しても「なんでいかなのぞ。」と反発する子が多い。

万引きは、とくに女子生徒が目立つ。遊び感覚でやる子が多く、反省の色が薄い。

○最近、ケイタイによる犯罪が多いが、買って与える親がまずしっかり指導する必要がある。

以上のようなお話の後、ご自分の子育てについて、「父親としてこうあらねばな

らないとやってきたが、後で考えるともっと子どもの声を聞くべきだったと思うこともあり、父親というものはむづかしいものだな、と感じます。」と述べられました。

▼真剣な面持ちで会に望む皆さん



◎会場からの質問
「深夜はいかいをする子の親は、子どもの行動を知らないのですか。」「半分以上の親は知らないようです。」
「非行を見たとき注意したいのですが、恐くてできません。」

「一人では控えた方がいいでしょう。緊急の時は遠慮なく警察に連絡してください。」
この研修会を終えて、子どもを非行から守るために地域がしっかり手をつないでいかなければならぬ、との思いを新たにしました。

ふるさとをたずねて

旧北伊予小学校玄関に思う

文化財保護審議会委員 相原 隆志

現北伊予小学校校庭の南西隅に「思い出の庭」がある。

県道八倉松前線に面し、高さ3メートルに及ぶ巨大な花崗岩の門柱、先哲相原賢先生頌徳碑、子規句碑、二宮金次郎陶像、古い玄関跡など校史を物語るものが保存されている。

明治25年に近代的な学校としての機能を備えた北伊予尋常高等小学校が伊予神社西隣に建築された。

中央の管理棟をはさみ、その東西に各3教室の校舎が並び、校門は北の往還に面していた。巨大な校門の石柱と管理棟の立派さに驚いた。

その玄関は西洋風に扇型の花崗岩を2段づみとして直径

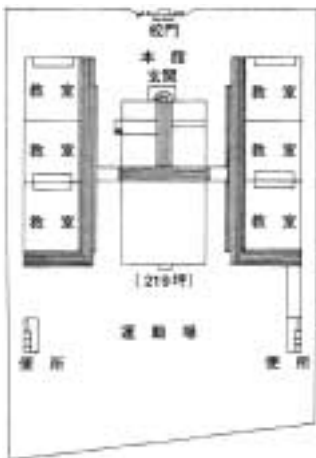
2m70cmの半円型のポーチ造りとしたモダンなものであった。

その後、明治33年に児童数増のため一度増築されたが大正2年には人口増、児童増には抗しきれず、ついに新校地へ移転する。現在地である。

この学校移転には、まず校門の石柱、玄関の石づみ（ポーチ）をそのまま新校舎に使用することになった。

以来、昭和57年現在の新校舎落成まで90年間教育の変遷を見守ってきたことになる。今、玄関木造部は、老朽化し倒壊のおそれがあるため取り壊しが考えられているが、貴重な石づみはそのまま残されるそうである。

明治25年竣工の校舎平面図
(北伊予尋常高等小学校)



◀玄関の石づみ